

まごころをもち心身ともに健全で，地域から愛される生徒の育成

－学校・家庭・地域の触れ合いを大切にしながら－

刈谷市立朝日中学校 吉田 幸和

1 はじめに

本校は，刈谷市の南部に位置し，生徒数 860 名，開校 23 年目を迎えた比較的新しい学校である。学区には，JR 東海道本線と国道 23 号線バイパス，そして国道 419 号線が通っている。保護者は，他の地域から移り住み，新しく住民になった人たちが多く。こうした地域事情を考慮し，人の気持ちの分かる人間，人のために行動できる人間に育ててほしいと願い，PTA や生徒，職員の意見をもとに，平成 5 年 3 月に校訓を「まごころ」に決定した。そして，現在もこの校訓を核にし，「まごころをもち，心身ともに健全な生徒を育成する」ために，毎日の教育活動に取り組んでいる。

昨年度から，「規範意識を高める学校・家庭・地域の相互連携の在り方に関する研究」を進めている。その結果，生徒は，クラスの中に自分を見いだすことができ，落ち着いて学校生活が送れるようになってきた。また，自分のとるべき行動を振り返り，正しい行動をイメージできるようになってきた。しかし，まだ生徒同士の小さなトラブルが原因で不登校傾向になる生徒がいたり，学校でおとなしい子とされている生徒が問題を起こしたりしている。また，自分に対して自信の持てない生徒がいて，学校では自分からあいさつをしても，地域ではなかなかできない生徒がいる。

このような生徒の実態から，目指す生徒「まごころをもち心身ともに健全で，地域から愛される生徒」を育てるためには，学校・家庭・地域が協力して互いに共通理解をしながら指導をしていくことが重要である。そのために，昨年度の指導の在り方を見直したり，新たな学校と家庭や地域との触れ合い方を探ったりして，目指す生徒を育てるための具体的な方法や内容を明らかにする必要がある。そして，日々実践していくことで，その手だてを明らかにしていきたいと考えている。

2 研究の目的

生徒の生きる力となる豊かな人間性と社会性を育成するために，家庭や地域と共に道徳教育を進める。例えば，学校・家庭・地域が一体となる体験活動を行ったり，学校生活全体に渡り，自他共に大切にすることを意識付けたりすることで，道徳教育の一層の充実・推進を図り，まごころをもち心身ともに健全で，地域から愛される生徒を育成する。

3 研究の方法

(1) 研究の仮説

道徳の時間の学習内容を見直したり，体験活動とのかかわりで道徳教育を進めたりする。また，学校・家庭・地域が連携し，自己肯定感をもたせながら道徳教育を進めていけば，規範意識が高まり，目指す生徒像「まごころをもち心身ともに健全で，地域から愛される生徒」を育成することができる。

(2) 研究の内容

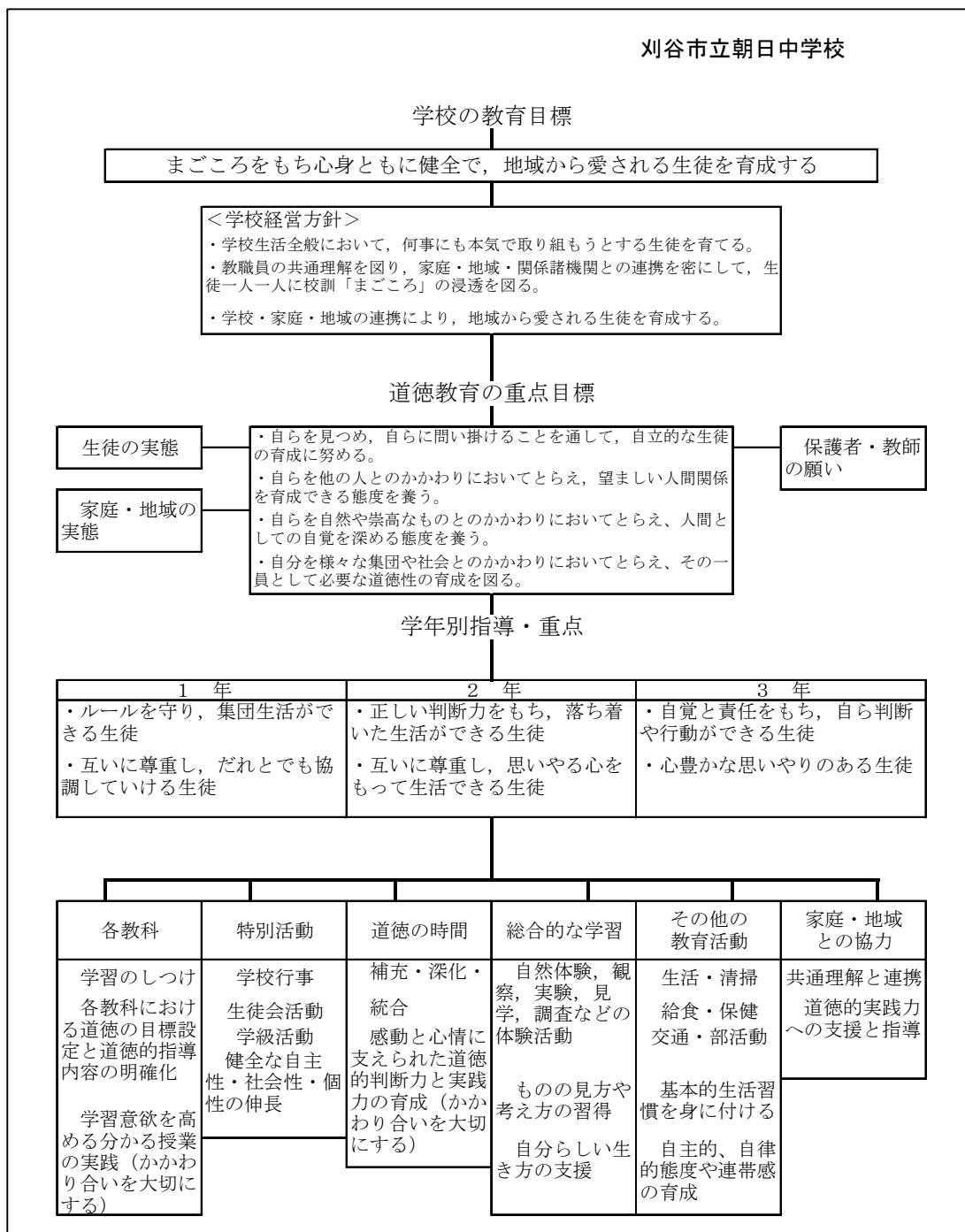
- ア 年間指導計画を見直し，かかわり合いを大切にした道徳の時間を計画的に実施する。
- イ 豊かな心を育てる体験活動を実施し，道徳の時間との関連をもたせる。

ウ 学校・家庭・地域との触れ合いを深める活動を実施する。

4 研究の実際

(1) 年間指導計画を見直し、かかわり合いを大切にした道徳の時間を計画的に実施する。

ア 道徳の指導計画



イ 道徳年間計画（2年生を例にして 次頁参照）

ウ 学校公開日に全校一斉道徳

本年度も、「まごころをもち、心身ともに健全であり、地域から愛される生徒を育成する」を道徳の目標とし、毎週の道徳の時間にこの達成を目指している。また、道徳教育推進教師を軸にして道徳の全体計画を見直し、各学年の道徳担当者が中心となり道徳の時間の年間指導計画を見直した。そし

< 2年生の道徳年間指導計画 >

| 月 | 週 | 主 題 名 | 時 | ね ら い | 指 導 内 容 | 学 校 行 事 等 |
|----|-------------|-------------|---|---|----------------------------|--|
| 4月 | 1 | うちの総理ちゃん | 1 | ・かけがえのない生命を大切にし、どんな状況でも精いっぱい生き抜こうとする気持ちを高める。 | 3-(1) 生命の尊重 | 始業式・入学式2-(1) 避難訓練3-(1) |
| | 2 | 一人じゃないよ | 1 | ・人間としての誇りをもって、自ら誠実に考え行動して、その結果に責任をもとうとする気持ちを高める。 | 1-(3) 自律の精神、自主、誠実、責任 | 授業参観日 4-(4) |
| | 3 | ガランチード | 1 | ・わが国の文化を愛し、日本人としての誇りをもって生きていこうとする気持ちを高める。 | 4-(9) 愛国心 | 家庭訪問2-(6) 4-(6) |
| 5月 | 1 | 開拓者の決心 | 1 | ・他の人に対して深い理解と思いやりの心を持ち、温かい心で接しようとする気持ちを高める。 | 2-(2) 人間愛、思いやり | |
| | 2 | プレーボール | 1 | ・相手の個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方がることを理解して、謙虚に他に学ぼうとする気持ちを高める。 | 2-(5) 個性尊重、寛容・謙虚 | 観劇会4-(9) 学校公開日2-(6) |
| | 3 | 温かい笑顔を忘れずに | 1 | ・社会への奉仕と、進んで多くの人々に役立ちたいとするボランティアの精神を大切にすることを高める。 | 4-(5) 勤労、社会奉仕、公共心 | 生徒総会1-(3) 4-(1) 4-(7) 1, 3年 P T A 学年総会2-(6) |
| 6月 | 1 | トランペット | 1 | ・身の回りを整えることの必要性を理解し、節度や調和を保って生活しようとする気持ちを高める。 | 1-(1) 望ましい生活習慣、心身の健康、節度と調和 | |
| | 2 | 母の反撃 | 1 | ・家族の中での自分の役割を自覚し、互いに助け合い、明るい家庭を築いていこうとする気持ちを高める。 | 4-(6) 家族愛 | |
| | 3 ・ 4 | Vサイン | 2 | ・礼儀の意義を理解し、他の人に対して思いやりの心を表現しようとする気持ちを高める。 | 2-(1) 礼儀 | 授業参観日1-(5) 4-(1) 2年 P T A 学年総会 2-(6) |
| 7月 | 1 ・ 2 | 林間学校を成功させよう | 2 | ・林間学校という目標を目指し、自分なら何ができるのかを考え、それに向かってやり抜く強い意志をもつ。 | 1-(2) 希望・勇気、強い意志 | P T A 学校保健委員会 2-(3) |
| | 3 | 天井が明るい | 1 | ・生きることの大切さを自覚して、生命を尊び困難に負けることなく、強く生きようとする気持ちを高める。 | 3-(1) 生命の尊重 | 3年保育実習 1-(2) 1-(5) 2-(1) 2-(2) |

て、生徒の抱える問題を解決するために、生徒の実態に合った資料を選択したり、指導過程の工夫をしたりし、この時間の指導を進めている。毎週の道徳の時間は、各学年の道徳担当が中心となり生徒の実態を基に、年間計画を決定する。各担当が指導案を作成し、学年会にて指導案を検討している。

1学期の学校公開日の6校時に全校一斉道徳を行った。1年の主題は「友情信頼」、2年は「個性尊重」、3年は「生命の尊重」であった。その時の2年生の指導案は次頁のとおりである。4人で一つのグループになり、二つの場面でロールプレイを行い、自分の気持ちがしっかり伝えられ、しかも相手が素直に分かってくれるにはどんなタイプが適しているのかを考えさせた。その後、自分も相手も尊重できる「自己主張」の練習を同じグループで行わせた。生徒は、ロールプレイの進め方を理解すると本気でそれに取り組み、友達の発言のよさを見付けていた。生徒の感想は「最初は恥ずかしかったけど、友達に自分の気持ちを聞いてもらえてうれしかった」や「互いに認め合うことでクラスが良くなっていくことを感じた」「自分と相手の両方を尊重しないといけない。どちらも上下はないことが分かった」などであった。友達との触れ合いを通して、自分たちがとるべき正しい言動をはっきりさせることができ、クラスの中での適切なコミュニケーションの仕方を理解させることができた。

今後は、家族や地域、社会人になってからのコミュニケーションのとり方にも目を向けさせる予定である。多数の保護者の参加の下、保護者にも適切なコミュニケーションについて考えてもらいなが

ら、どの学級も落ち着いた雰囲気の中で授業が進められた。保護者から「家庭でも触れ合いを大切にしないとイケませんね」と感想をいただいた。道徳の時間を公開したことの一つのメリットを感じた。

<2年「自己主張」指導案>

| 主な発問と生徒の心の動き | 指導上の留意点 |
|---|--|
| 1 「中止になった家族旅行」を読み、自分ならこの後どう言うのかを考える。 ・参加できないことを非難する。 ・絶対に許せないから | ・机を出しておいた方が活動しやすい。 ・この部分はあまり時間を使わないようにする。 |
| 2 自己表現の仕方には、3つのタイプがあることを知る。 ・ひっそり型 ・ずけずけ型 ・さわやか型 ・時間を守る。 ・不要物を持ってこない。 | ・シート1（自己表現の仕方）を活用して読み合わせ、自分がどの型のタイプに近いかを考えさせる。 |
| 3 どのタイプがよいかを考え、なぜそう思ったのかを発表する。 | ・「さわやか型」がなぜよいのか、その理由を大切にしながら発表させる。 |
| 4 さわやかな自己主張ができるための練習をする。 ・4人グループで取り組む。 ・進め方を理解する。 ・シート2を使って二つの場面を読む。 ・発言者のよかったところを評価する。 | ・自分の思いや考えをもたせる時間を十分設定する。 ・教師と生徒の練習している様子を見せてからロールプレイに取り組ませる。 ・シート2（テスト前に電話をかけてきた友達、掃除をさぼるBさんへの忠告）の場面を一度範読する。 ・机間指導をし、それぞれのよい点を評価する。 |
| 5 全体で活動の振り返りをする。 ・友達のよかったところを発表する。 ・演じてみた感想を話す。 | ・座席を一重円で作らせる。 ・時間があれば記入させてからそれぞれの意見を発表させる。 |
| 6 自分の思いや考えを伝える時に、大切なことをまとめ発表する。 ・自分の考えを発表し合う。 | ・一人一人の発表内容のよい点を褒める。 ・机間指導をして、発表する生徒を決定しておく。 |

エ 情報モラルの指導の充実

本校では、情報モラル教育を「自分や友達などの個人情報大切に使う」や「相手への影響を考えた行動をする」「自他の個人情報を、第三者にもらさない」などを育てることを重点として進めている。



<コンピュータ室での授業の様子>

そして、道徳教育推進教師や道徳主任、情報教育主任と話し合いながら、指導計画を立案し、各学年の実態に合わせて指導内容を決め、道徳の時間や学級活動を中心に指導している。指導内容については、「情報社会における正しい判断や望ましい態度を育てること」と「情報社会で安全に生活していくための危険回避の方法の理解」の二つを踏まえながら設定している。

2年「携帯（メール）の正しい使い方」では、コミュニケーションをとる方法のそれぞれの利点を発表させた後、送る相手の気持ちを思いや

るメールの送り方について考えさせた。生徒には、まず主人公が好きな女の子にメールを使ってデートに誘うという内容のDVDを視聴させた。DVDは生徒たちにとって身近な内容であったので、集中して視聴できた。その後、生徒たちは、相手の気持ちを考え、手紙を書くように丁寧にメールを作ることが大切であることを理解した。最後に、よくないメールの使い方を考えさせた。生徒からは、「チェーンメール」や「迷惑メール」「自転車に乗りながらのメール」など、自分の経験談を踏まえながらたくさんの意見が発表された。また、生徒はそれぞれよくない理由を知ってはいるが、分かっているにもかかわらずしてしまったことを後悔している意見もたくさん出てきた。

今回の授業では、保護者の参観はなかったので、授業の様子や生徒の感想を学級通信に載せて家庭に伝えることにした。保護者からは、「ぜひこのような指導をどんどんしてほしい」や「携帯電話についての勉強がしたい」などの感想がいただけた。

そのために、電話会社に依頼して11月に、「2年携帯教室」を開催することになり、生徒と保護者が参加することになっている。今後も、「心」と「知恵」の育成を意識しながら、全職員が共通理解しながら、この教育の指導を展開していきたい。

(2) 豊かな心を育てる体験活動を実施し、道徳の時間との関連をもたせる。

今年度も、1年生は「福祉実践教室」、2年生は「職場体験学習」、3年生は「保育体験学習」を主な体験活動として位置付け、道徳の時間との関連をもたせながら、道徳性の育成を図っている。

ア 2年—自分を見つめ、働くことを考える「職場体験学習」—（平成21年度の実践）

生徒に職業観や勤労観を身に付けさせ、自らが望ましい進路選択ができるようにキャリア教育を推進



〈マナー講座の様子〉

している。職業に関する諸能力やコミュニケーション能力の育成、未来設計の資質向上を目指して職場体験学習を実施した。

方などを実践的に学ぶことができた。今回のマナー講座では、人に接するマナーを学んでおくことは、未来の自分を見据えるよい機会となった。さらに、教えていただいたことは、その後の学校生活や授業の中で定着を図っていった。お世話になる事業者には、今回は生徒が中心となり依頼の電話をした。結果100箇所以上の事業所が依頼を受けてくださり、その後、履歴書や依頼状を書き、事前打合わせに向けた準備を進めた。

(イ) 職場体験学習

(ア) 働くことを問い、マナーを磨く「事前学習」

事前学習として、自分の夢や願いを書かせ、働くことの意義や苦勞、そして喜びを考えさせる学習を行った。職場体験学習に向けて、ビジネスマナー講師の落合先生を迎えマナー講座を行った。おしゃれは自己満足であり、身だしなみは相手満足であることを教えていただいた。また、清潔感のある身だしなみや笑顔の作り方、あいさつの仕

ほとんどの事業所で5日間の職場体験学習を行うことができた。この体験学習では、働くことの大変さや難しさ、あいさつや言葉遣い、身だしなみなど、基本的な事柄の大切さを学ぶことができた。事業所からは、「事前の研修を受けてきたので、礼儀やマナーについては、何も教えることはありませんでした」や「3日目が過ぎた頃から、進んで仕事をやってくれた」などの感想をいただいた。反面、

「積極的にやってくれる子とそうでない子の差があった」や「一生懸命やっているが、返事やあいさつの声が小さかった」などの、貴重な意見もいただいた。

(ウ) 振り返りの活動で心を磨く「事後指導」

体験して学んだことを、それぞれがレポートにまとめ、振り返り活動を行った。レポートの項目は、「テーマ」や「仕事の内容」「職場の人から学んだこと」や「感想」の四つであった。12月に入り報告会を行うために、その準備を計画的に実施した。そして、完成した学年テーマ「未来の“自分”を切り拓く職場体験学習」のレポート集を持参し、各事業所にお礼訪問に出掛けた。各事業所からは、「丁寧な反省文をいただきじっくり読ませてもらいます」との感想をいただいた。生徒は、それぞれにやり遂げた達成感や成就感を得ることができた。この訪問後に、担当者で反省会を開いた。課題としては、職場体験学習が5日間であり、受入れの事業所を探すのが大変であったことや生徒の希望する職種に偏りがあったり、希望する職種の受入先がなかったりしたことなどであった。事業所と学校との連携をさらに密にする必要性を感じた。

生徒の体験を参考にしながら、主題名「本当のボランティア」と「社会への奉仕」「人を思いやる心」の三つについての資料を作成した。そして、3学期に、この資料を基に「社会への奉仕」をテーマにした道徳の時間を実施した。この資料を使ったことで、生徒は、自ら考える意欲を高め、進んで社会のために尽くし、よりよい社会を築いていこうとする気持ちを高めることができた。

イ 3年一幼児と触れ合い、自分を見つめる保育学習一

家庭科の「家族と家庭生活」の単元と総合的な学習の時間及び道徳の時間を関連付けて実践している。幼児との触れ合いを通して、人と触れ合うことの大切さや子どもが育つ環境としての家庭や地域の役割に気付くとともに、現在の自分を見つめ、これからの自分の生き方を考えるきっかけとすることをねらっている。

(ア) 1学期【幼児と楽しく遊ぼう 2時間実習】

まず、「自分を見つめよう」ということで、詩「いのちのバトン」や絵本「赤ちゃんてね」などから赤ちゃんの不思議さを学んだ。その後、自分の幼い頃の様子を調べそれを発表し、マイブックにまとめさせた。次に、幼児の体や運動機能の発達を考えるために赤ちゃん人形を抱っこしたり、資料で調べたりした。マイブック作りでは、自分の保護者に熱心にいろいろなことを尋ねて調査し、だれもが丁寧に作ることができた。第1回目の保育実習の計画では、生徒一人一人がマイテーマを決めてから実習に参加した。そして、学校に戻ってから、保育実習で見付けたことをまとめさせた。



<幼児と楽しく遊ぶ様子>

ここでは、幼児と遊ぶ中で幼児の姿や遊びの様子をはっきりとらえさせ、幼児は遊びの中でいろいろな学習をしていき、幼児にとって遊びは大切であることを気付かせるようにした。

(イ) 2学期【幼児と触れ合おう 半日実習】

幼児の生活習慣について考えさせ、第2回目の保育実習の計画を立てさせた。幼児のよりよい成長をキーワードに、学習を進めた。それぞれが、自分の課題をもち、幼児の成長を重点にした触れ合い方を考えさせた。保育実習後は、前回と同様に保育実習で見付けたことをまとめさせた。生徒は、「幼児は、周りのいろいろな人とかかわりの中で育つこと」や「幼児であっても相手のことを思いやる優しい心をもっていること」「まじめに話を聴いてくれる人を好きなること」など、幼児と真摯に触れ合った結

果いろいろなことに気付くことができた。実習後に、幼児の成長にとってよりよいかかわり方について、クラスで話し合い活動をさせた。幼児と実際に触れ合った後なので、それぞれ自分の担当した幼児を思い出しながら、真剣に自分の意見を言ったり、友達の話の話を聞いたりしていた。その後、子どもを取り巻く環境や子育て支援制度、子どもの虐待について、ビデオを視聴させたり、調べ学習をさせたりした。

(ウ) 3学期【幼児の心をつかもう 1日実習】

3学期に入り、第3回目の保育実習計画を立てさせる予定である。生徒一人一人が明確な計画を立て、幼児の心をつかめるように支援したい。そして、実習に行く前に、絵本の魅力を知らせるために、すべてのクラスに読み聞かせの会を設定し、地域の講師から、絵本の魅力をどう幼児に伝えるのかを教えていただく予定にしている。

この一連の体験を通して自分と向き合うことができたり、今まで自分の成長を支えてくれた人たちへの感謝の思いをもったりすることを期待している。そして、規範意識を高めながら、今後の自分の人としての生き方や在り方を見つめるきっかけとなるように指導していきたい。

(3) 学校・家庭・地域との触れ合いを深める活動を実施する。

ア 「課外授業」について（平成21年度の実践）

生徒と地域の人々との触れ合いを通して、地域の力を学校に取り入れたいと考え、以下の2点をねらいとした。一つ目は、学区及び学区近隣の地域に住み、それぞれの分野で優れた技能をもっている方たちを地域の先生（講師）として招き、「課外授業」を設定する。そして、生徒は自分の取り組みたい教室に参加し、地域の先生と触れ合う中で、その人の心と技や生き方を学ぶ。二つ目は、保護者にも、協力と参加を呼び掛け、家庭・地域・学校の連携を図ることである。

(ア) 講座と地域の先生の決定

「課外事業」がスタートした頃は、1学期からPTA役員や職員が中心となり、課外授業の講師を探していた。しかし、現在は、課外授業が地域に浸透してきたこともあり、おおむね昨年度の実施案を基に講師を決定することができている。そのため、学年の実態に合っていない講座は他の学年と入れ替えをしたり、講座そのものを新しくしたりするようにしている。本年度も、1学期より電話で講師依頼を始めた。昨年度講座をもっていた先生方は、だれもが快く引き受けてくださった。先生によっては、「電話を待っていました」という方もいて



<講座「礼法」の様子>

「昨年楽しくやらせていただいたので、今年もぜひお願いします」という声が聞かれた。今まで、この「課外授業」を積み重ねてきた結果だとうれしく思った。

(イ) 「課外授業」当日の様子

例年各講座が始まるまで慌ただしいが、本年度は、受付や荷物の運搬などPTAの地区委員や学年委員が中心となり活動し、スムーズに行うことができた。また、講座ごとに、PTA担当者と教師の打合せも十分に行うことができた。時間前に、各学年の打合せ会場には、代表生徒が地域の先生を迎えに来ていて、生徒のやる気を十分に感じた。

生徒は自分たちの取り組みたい講座を選択したこともあり、この授業を毎年1学期からとても楽しみにしている。折り紙の講座では、講師の先生が、「作品の内容が例年より難しく、生徒が最後

まであきらめないで作品を作ってくれるか心配であった。しかし、時間を延長しても生徒は集中して取り組んでくれた」と、生徒の活動の様子を褒めていただいた。また、講師さんとPTAの担当者が、講座が終わっても作品について楽しそうに話している姿を見かけた。その他の講座でも、「生徒さんがこんなに一生懸命やったださるとは思わなかった。来年もぜひやりたい」と感想を述べていた。PTA担当者の感想では、「こんなに素直に生徒さんが活動してくれて、うれしかった。担当者をやって生徒や学校のことがよく分かった」という好感的な感想をいただいた。

(ウ) 成果

講師さんは地域の方が中心であり、生徒は、それぞれの講座の中で講師さんと心の交流を深めることができている。また、講師の先生と共に真剣に活動する中で、講師の先生の技や生き方を感じ取ることができ、地域の人たちと心を通わせる活動ができていた。そして、さらに今後この「課外授業」が、生徒にとって、触れ合うことの大切さを学ぶ機会になればと考えている。

昨年度も講座の運営をPTA講座担当者にやってもらった。職員からは、「今年も、講座の司会も保護者がやってくれた。とても助かった」という、感想が出てきた。また、保護者に、生徒と一緒に講座に参加してもらおう中で、生徒と触れ合い、本校の生徒を理解してもらおうよい機会になった。今後は、さらにPTA担当者の役割を見直し、この「課外授業」の運営の仕方を改善していきたい。

イ 「おやじの会」の充実



<「おやじの会」総会の様子>

平成21年度に、元PTA会長の発案により、過去2～3年のPTA役員が賛同し「おやじの会」を立ち上げるようになった。設立の趣旨は、「学校・家庭・地域の連携を深める機会、地域の方々と接する機会、親同士の交流する機会づくりをし、生徒の規範意識を向上させるため」である。保護者たちが中心となり、学校活動や地域活動の支援を行い、生徒が安全で安心して過ごせる地域づくりに少しでも役に立てばと考えている。

1学期当初より運営に関するアンケートを実施し、「おやじの会」の設立準備を始めた。その結果、10月に「第1回おやじの会総会」を開催することができ、本格的に活動を始めることとなった。最初は、「課外授業」の駐車場係としてのボランティア活動を行った。12月の土曜日に、「おやじの会」主催第1回学区清掃を行った。参加者は「おやじの会」のメンバー14名、ボランティアの生徒35名だった。参加者は、事前に三つの班に分かれて活動した。第1班は、JR東刈谷駅から出発して学校まで、第2班は、JR野田新町駅から学校まで歩く班だった。第3班は、ミササガパークから学校までで、どの班も「おやじの会」のメンバーと生徒が3、4人で一つのグループをつくりながら、燃えるごみや燃えないごみ、金属類のごみを拾いながら学校までの道のりを1時間かけて歩いた。



<清掃活動の様子>

生徒からは、「参加してよかった。やると気持ちがいい」「道路にこんなにたくさんごみが落ちているなんて。マナーの悪い人が多い」との感想があった。おやじの会のあるメンバーは、「子どもたちがこんなにたくさん参加してくれるとは思わなかった。今後も定期的に行いたい」との感想であった。地域の方から「頑張ってるね」や「お疲れ様」と声を掛けられ、生徒は笑顔になり、自分たちの行った活動の価値を体で感じることができていた。



＜生徒と一緒に作業する様子＞

うな体験活動を通して、生徒の規範意識を高めていこうと考えている。

ウ 地域へ出掛ける生徒ボランティア

校長の「中学生の力はすごい。地域の活動に中学生を参加させることで生徒を理解してもらえろ」という方針の下に、昨年度から生徒には地域に出掛け「自分の力を試すこと」を奨励してきた。また、このことについて、教育懇談会やPTAの会合など、地域の方々が集まる場所で説明し、中学生を派遣することを理解していただいた。本年度は、教頭が窓口になり、生徒に、地域の行事や幼稚園・小学校の運動会のボランティアを呼び掛けた。前日には、活動内容やその態度について簡単なオリエンテーションを実施している。



＜進んで道具を運んでいる様子＞

った。ある生徒は、「綱引きの場面では、勝ち負けを決めるので、不正がないように慎重に綱を置く位置を決めた」と感想を述べていた。どの生徒もボランティア活動に本気で取り組むことで、参加したことよさを感じていた。そして、参加した生徒は、また自分の力を地域で発揮してみたいという気持ちをもつことができた。

平成22年度からは、他の地域の「おやじの会」と連携したり、定期的に校内環境の美化活動を行ったりしている。今年度は、特に東三河の山に間伐材をもらいに行き、それを使ってベンチを作り、校内の環境を整える活動をしている。特に木の皮をはぐ作業は大変なので、生徒のボランティアも参加して作業を進めた。

また、地区の道路清掃ボランティアに生徒と一緒に「おやじの会」のメンバーも参加した。共に汗を流しながら、地域をきれいにするこ

うや地域を大切にすることの大切さを伝え、このよ

10月の土曜日に、本校に隣接している朝日小学校の運動会に、3年生9名が運動会ボランティアとして参加した。活動内容は、各種目の器具を出したり片付けたりが主な活動であり、その活動の中で児童と自然な形で触れ合っていた。生徒の感想は、「最初はよく分からなかったけど、一生懸命仕事をするところを児童に見せることができてよかった」や「次の事、次の事を考えて仕事をするこ

うの大切さを学んだ」「別の視点で運動会を見ることができた。よい経験ができた」などであ

エ 家庭や地域との連携を深める

学校での様子を家庭や地域に伝え、共に指導していき、生徒を育てていくことは重要である。そこで、学校だよりや学年だよりなどを家庭に配付するだけでなく、各学年の様子をまとめた地域広報版を作成し、地域の郵便局やJAの支店、銀行などに掲示している。また、学校のホームページを使って、最新の学校の情報を保護者に知らせている。ホームページは、毎日更新することで、本校への1日のアクセス数は、現在120以上である。

このようにして生徒のよさや活動内容を家庭や地域に紹介することで、本校の生徒の規範意識を高める教育に対して、さらに理解や協力をいただくことができている。今年度も、授業参観ごとに保護者にアンケートを実施している。そのアンケートには、生徒の規範意識について触れている。そして、その折々のアンケート結果を比較することで、規範意識の向上への取組の成果を把握したいと考えている。

5 研究のまとめと今後の課題

(1) 成果

ア かかわり合いを大切にしながら道徳の時間を実施したことで、生徒は、クラスの中で自分の思いや考えを意欲的に発言したり、友達の話をしつくり聞いたりすることができるようになってきた。また、生徒は、クラスの中で自分を見いだすことができ、落ち着いて学校生活が送れるようになってきた。そして、生徒は、学校や社会のルールを守ることで、安心して生活できることを理解し、規範意識を高めようとする姿勢が見られるようになった。

イ 豊かな心を育てる体験活動を実施し、道徳の時間との関連をもたせることで、生徒は、実際に体験したことを基に自分のとるべき行動を振り返り、正しい行動を強くイメージでき、それを実践できるようになってきた。そして、自分の周りの人に感謝する気持ちが育ち、相手を思いやる行動が取れるようになってきた。

ウ 学校・家庭・地域との触れ合いを深める活動を実施したことで、保護者や地域の方が、今まで以上に本校の生徒を見守ってくださるようになり、生徒の様子を教えてください方が増えた。保護者のアンケート結果から、合唱コンクールでは、「みんなが真剣に聞いていて感動しました」の感想をいただいた。また、PTAの地区委員に朝の交通立ち番指導をお願いしている。その感想に「あいさつがよくできるようになった」や「横断歩道の渡り方もよくなってきた」が増えてきた。地域に愛される生徒、規範意識をもった生徒が育ちつつあることが実感できた。

(2) 今後の課題

今後の課題については、以下の3点である。

ア 体験活動と道徳の時間のかかわりをさらに密にした、道徳の時間を計画し実践する。

イ 保護者の思いや考えを大切にし、生徒の規範意識を高めるような「おやじの会」の運営の仕方を構築する。

ウ 生徒が地域の行事へ主体的に参加するための運営の仕方を工夫する。

6 おわりに

目指す生徒を育てるために、平成21・22年度とこれまで本校で行ってきた教育活動の質を高めながら、無理のない範囲で少しずつ新しい活動を行ってきた。本年度は、生徒が地域に出かけてボランティアをする活動が本格的にスタートし、地域に貢献する生徒が少しずつ増えてきた。生徒の様子を見ていると、一つ一つの手だてが、生徒の規範意識を高めることに有効に働いていることが分かり、生徒の成長をうれしく思っている。今後も継続研究していく中で、生徒の規範意識を高めていきたい。